

わが町の先生

長野県
北佐久郡
軽井沢町



自然・動物・人の 共生をテーマに 守り育む 理想の里山風景

ドイツ人所有の別荘地
だったWasserの森。母
屋などの建物も改装した



1986年農獣医学部(現 生物資源科学部)
獣医学科卒業
1988年大学院獣医学研究科修了

Profile

そのお・よしこ

山口県生まれ。東京、神奈川、埼玉の動物病院で臨床経験を積み、軽井沢町で開院。循環型里山づくり、新薬の実用化を目指す株式会社グリーンエバーの代表取締役も務める。

グリーンエバー動物病院院長

園尾 美子 先生

小学4年生の時、ライオンと人間の愛情を描いた物語『野生のエルザ』に心を打たれ、獣医を志した園尾美子先生。自然豊かな軽井沢で動物病院を営む傍ら、環境保全活動にも尽力している。

直感で決めた軽井沢で新薬開発も

軽井沢町で開院したのは2009年のこと。

「由縁のない土地でしたが、たまたま友人と遊びに来て、自然の美しさや心が軽くなるような空気に魅了され、その日に開院を決めました」

常々目指していた「自然・動物・人の共生」が、軽井沢なら実現できそうだと直感した。以来、動物に寄り添う「オンリーワン診療」を掲げ、地域で評判の動物病院として愛されている。さらに、持ち前の探究心で新薬も開発。臨床経験を積む中で難治性創傷治療に有効な新配合剤「パ

ウダーエイド」を発見し、日本、アメリカ、ヨーロッパで特許を取得した。これは人と動物に役立つ、画期的な薬として注目され、現在、製品化に向けた準備を進めている。

次世代につなぐ

循環型里山づくり

幼少期からの環境保全への思いは、中学時代にナショナルトラストを知ったことでより強くなり、その後の渡英を機に揺るぎないものになった。

「ナショナルトラストで守られたイギリスの原風景は、幼い頃に見た『ビーターラビット』の世界そのものでした。強い感銘を受けて帰国後、さまざまな環境保全活動に参加。その中で日本の里山風景を残したいと思うようになったんです」

そして2020年、隣町の御代田町みよたまちに約5千

坪の丘陵地を購入し、循環型里山づくりをスタート。浅間山を背に田園風景が見渡せる小高い丘と小川が流れる豊かな森を「Wasserヴァッサー」(ドイツ語で水の意味)の森」と名付け、森の資源を利用した土作りや薬草茶の生産などを行う。「土地と共に人の思いも循環させて次世代につなごう」。この森をモデルに、環境保全の取り組みがさらに広がることを願っている。

Present

Wasserの森「森の恵みブレンド茶」を3名様にプレゼント。詳しくはP64をご覧ください。



温かな雰囲気のある院内。2024年3月、「Wasserの森」隣接地に移転予定(移転に伴い2024年2月3日～3月3日は休診)

軽井沢には自然保護を志す人が多く仲間も増えた。移住から15年、「毎日感動できる景色と共に暮らせるのが何よりも心の栄養」と語る



*歴史的に貴重な遺跡や自然環境を、市民が寄付や買い取りなどで入手し守る運動。1895年にイギリスで始まった。